



家族構成

- 夫 25 歳 (滋賀県警察勤務)
- 妻 26 歳 (滋賀県警察勤務)
- 陽翔くん 1 歳

妻のイクメン診断レベル



家族の声

つわりで苦しかった時も、産後、体調がなかなか回復しなくて辛かった時も、ホルモンバランスが乱れてイライラした時も、育児や家事を積極的に引き受けるだけでなく、私のことを理解していつも支えてくれたことをありがたく思っています。



現在、私は、県内の交番で「おまわりさん」として働いています。妻も警察官で、現在は育児休業中です。出産後、妻の体調の回復が遅れたので、心身の負担を少しでも軽減できるよう、積極的に育児や家事に関わることを心がけました。県警では女性警察官が仕事と子育てを両立できるよう、さまざまな支援を行っています。父親の育児参画にも大変理解があります。私も上司から育児休暇を取るよう勧められましたが、通常

の三交替勤務をしながら、得した後、職場に復帰、平日は保育園にある保育所に預けてフルタイムで勤務しています。妻はほぼ日勤です。私は3交替制で夜勤もあ

りながら、前月に2人で相談して、院内保育所が休みになる休日に妻が出勤する場合は私が休みを取って子どもの面倒を見ています。結婚した時から、自然に協力し合って家事をしてい

イクボス、イクトモ、周りの人に助けられながら父親の幸せを実感しています!



ら、なんとか大変な時期を乗り越えることができました。妻の体調が回復した今も、子どもをお風呂に入れるのは主に私が担当しています。子どもを待たせながら、笑顔で迎えています。それでも、私が仕事

もを産んだ母親にはかなわないと思うことがありますが、父親になってみて幸せの中心は家庭にある、何気ない日常の中にさまざまな喜びがあるということを実感しています。

お酒を飲んでうたた寝していたら、子どもが置いてあった「コショウ」をまき散らして遊んでいる事にも気付かず大惨事に...! その現場を発見した妻に、父子共々こっぴどく叱られた事がありました...

京都市内の同じ病院で私は看護師、妻は看護助手として働いています。戦前生まれの私の両親の世代は、夫は外で仕事一筋、妻は家事・育児のすべてを担うという考えが一般的でした。私と同世代の男性はそういう家庭環境で育っている

ので、家事や子育てに積極的に参加した人は少ないと思います。ところが、時代はどんどん変わり、働き方や家族のあり方も変化して、今や夫が協力するのは当たり前になりました。妻は1年間育児休業を取

り、なんと大変な時期を乗り越えることができました。妻の体調が回復した今も、子どもをお風呂に入れるのは主に私が担当しています。子どもを待たせながら、笑顔で迎えています。それでも、私が仕事

「男は仕事一筋」はもう古い! 50代パパ、子育て奮闘中、喜びを実感!

- 家族構成 夫 52 歳 (看護師)
- 妻 41 歳 (看護助手)
- 運くん 3 歳

妻のイクメン診断レベル



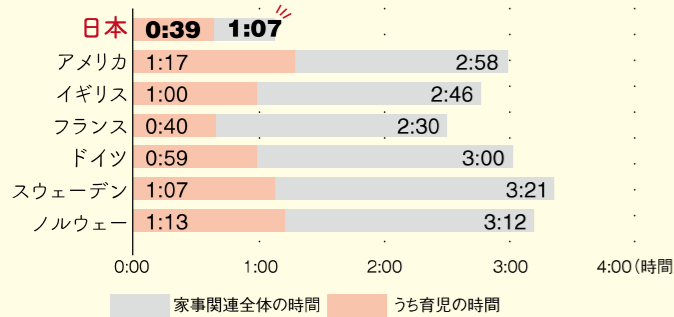
家族の声

育休明けから1年半。子供を院内保育園に預けながら働いていますが、毎日が慌ただしく、帰宅すると動けないくらい疲れる日もあります。夫も仕事で疲れているはずなのに、チャチャッと夕食準備をしてくれ、和・中・洋と味も見た目も素晴らしいお腹が満たされ感謝です。ただ、毎日の晩酌が行き過ぎてて身体を壊したりしないかとか、気に病む場面もありますが…。それを除けば満点パパです!



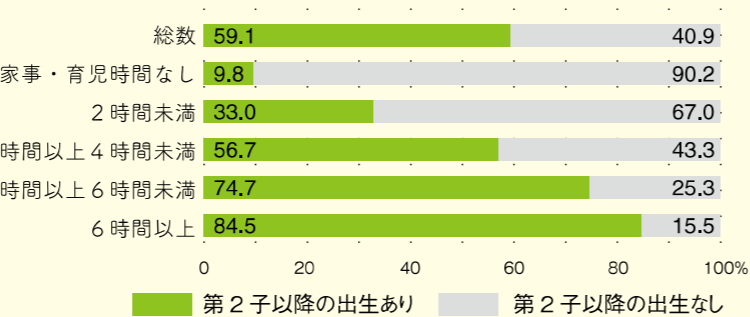
パパの育児時間、諸外国との比較

6歳未満の子供をもつ夫の家事・育児関連時間 (1日あたり・国際比較)



2人目以降の出生とパパの家事・育児時間

夫が家事育児を長時間している夫婦の方が、第2子以降の誕生する割合が高い。



日本に住む外国人パパ Interview



- ジェームス スプリットさん 33 歳 (会社員/在宅勤務)
- 妻 尚子さん 31 歳
- 娘 梢恵ちゃん 2 歳

育休などの制度を利用して夫婦で助け合って子育て
アメリカミシガン州の出身で、滋賀県庁の国際室に勤務時に結婚。その後、アメリカに転勤となった妻と共に帰国して、米国特許商標庁で働いていた時に娘が生まれました。昨年、日本に帰国し、妻は正社員としてフルタイムで働き、私は在宅で翻訳の仕事をしています。家にいる時間が長いので、当然私のほうが育児や家事にかかわる時間が長くなりますが、基本はお互いに助け合いできることをできる方がするようにしています。アメリカには公的な保育所はありませんので、子育てしながら共働きするためには、民間の保育所やベビーシッターの費用は両親が負担しなければなりません。また、日本のように祖父母に子どもを見てもらうというところはありません。どちらかと言うとアメリカのほうが、仕事と子育ての両立は厳しいかもしれません。

その反面、育児休暇などの制度はほとんど利用したほうが良いという考え方が浸透していて、男女ともしっかりと取っていますし、子どもが病気の時に休める看護休暇のような制度もあります。妻は日本に帰って出産したのですが、その時私も振替休暇などを利用して2カ月の休みを取り、いっしょに過ごすことができました。